

発行

志津地区社会福祉協議会

発行人 横山幹雄

編集 広報事業部

事務所 佐倉市中志津2-32-4

西部地域福祉センター内

TEL 460-1781 FAX 463-4169



バザー



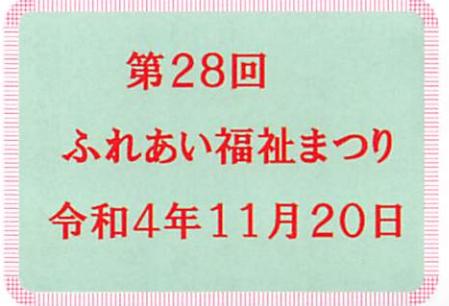
本部



手作り品



ポップコーン



ひさしぶりの開催です。  
駐車場では食べ物の他、  
農産物、福祉委員及び中  
学生の手作り品を販売。  
残念ながら城内での飲食  
はできません。  
建物内ではバザー、演  
芸、ゲームコーナーがに  
ぎわいました。



赤飯



焼き芋



焼きそば



炊き込みご飯



飲み物



農産物



中学生の手作り品



ゲームコーナー



演芸コーナー

2023年(令和5年)3月26日

## 志津車座・2

1月15日、志津公民館4階にて  
8自治会の代表者が参加して、志津車座が開催された。  
話し合われた問題点及び解決方法

### ①向こう三軒両隣

#### 問題点

- ・マンションの為、住民の顔を知らない。平日は顔を合わせることが少ない。

- ・生活環境などの違いで、挨拶をする程度の付き合いしかしない。  
・集まる機会が少ない。

- △挨拶をした後、会話を繋げて、世間話をしながら関係を構築していく。

#### ②自治会問題

- ・高齢者の活動の場として、環境美化活動の有償化。

- ・各団体（消防後援会・まち協他）への会費、補助金等の減額。

- ・自治会を脱会したい人が多い。  
・家族構成の確認や公表ができるないため、災害時に困る。

- △自治会の役員になって、自分に合ったメリットを得る。役員同士の懇親をはかりコミュニケーションをよくする。各種イベントの再開で楽しみを増やす。



車座討論風景

③防犯防災

- ・昔の長屋感覚の「向こう三軒両隣」は難しく、災害が発生した時は自治会の防災会での協力で対応していく必要がある。
- ・近所の高齢化が進む中、中高年の自治会参加を促進していかないと、災害時に対応できないのはと心配している。
- ・防犯防災の協力体制ができるない。

△社協の防災・防犯部会ではさまざまな活動を行っており、それらの参画への協力を得る。

・市役所、地域包括支援センターとの連携による。



おはじき



けん玉



全員整列



めんこ



おりがみ

12月9日、上志津小学校にて「昔遊びを楽しむ会」が行われた。  
参加者は1年生全員と福祉委員15名です。

あやとり・お手玉・おはじき・メンコ・コマ廻し・あやとり・折り紙・けん玉・竹とんぼ等を福祉委員と1年生が一緒に楽しみました。最初1年生は上手にできませんでしたが、楽しんでいるうちに、何とかコツをつかんだようです。

## 昔遊びを楽しむ会

## 認知症サポーター養成講座・開催

志津公民館（市民プラザ）に於いて、令和五年二月十二日（日）午後二時～三時半、劇団南座による公演「まいごの高齢者を見つけて」に続き、志津北部及び南部地域包括支援センターより講師をお迎えし、認知症サポーター養成講座が開催されました。（総勢52名の参加者のうち、他地区（ユーカリが丘地区、西志津地区、南志津地区）社協より19名の方に、また一般の方9名にもご参加いただきました。）

南座による寸劇では、徘徊されている認知症とみられる高齢者と出会った際、どのように声掛けすべきか、悪い例と良い例をそれぞれ演じていただきました。

続いて、地域包括支援センターの講師による「認知症サポーター養成講座」は、受付で配布された標準教材を用いて『認知症を理解する』ことから講義を受けました。

- ①認知症とは
- ②認知症の症状
- ③認知症の診断・治療
- ④予防についての考え方
- ⑤認知症の人への支援とは
- ⑥認知症サポーターとは

⑦認知症介護をしている家族の気持ちを理解する

いる司令塔である【脳】。

認知症とは色々な原因で脳の細胞が死んでしまったりして、脳の司令塔の働きに不都合が生じ、さまざまな障害が起こり、生活する上で支障がおよそ6ヶ月以上継続している状態を指す。

限られた時間の中で盛りだくさんの内容でしたが、誰もが認知症について正しい知識を持ち、認知症の人や家族を支える手立てを知ることの重要性を理解することが出来ました。

2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。

認知症やその疑いのある行方不明者は一昨年、佐倉警察署管内で30名いましたとのことです。（全国では17500人以上）

身近な方から不明者が出来る可能性もあることから沢山のサポーターを養成し、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の方やそのご家族に対してできる範囲で手助けができると思えた大変貴重な、また大勢の方にご参加いただき大盛況な講習会でした。

## ミニ門松作り

12月18日、志津公民案4階でミニ門松作りを行いました。参加者52名。

全員揃いました

さあ始めましょう

慎重に



どれどれ

完成です

### 歳末助けあい街頭募金

12月2日、志津駅前にて街頭募金を行いました。

募金総額￥14,725-

これは佐倉市にお住いの方々が温かい正月を迎えるようにするための支え合い活動の一環です。

## 「心を豊かにするお片付け術」

令和四年十一月十一日（日）午後  
一時半～二時 西部地域福祉センター  
にて秋山賀代子講師を迎え、【暮らしに役立つ整理収納講座】が開催されました。

世の中はお片付け「整理収納」流りですが、大切なのは不用品と必要なものを区別して各家庭に見合った適正量を考えること。

雜多な物に溢れた場所は心のありようを映しているとも考えられ、人は一年のうち五ヶ月を探し物に費やしているとのイギリスの報告もあるそです。

整理収納を学ぶと幸せになる！

（家族そろって食事をしたり、家族でゆっくり家で過ごすようになる。）とのことで、レジメに従いそのコツを教えていただきました。

先ず整理収納は順番が大切！

整理→収納→整頓→掃除で完結し、

中でも八割の時間は整理と収納に費やすそうです。

①整理＝不要・必要の区別、適正量を考える。

②収納＝使う物ごとにグループ収納、

安全第一で使う頻度ごとに取り出しやすさを考え、使い易く收める。

収納→取り出しやすく元



講座風景

（4）掃除＝最後はきれいにほこりを取り除く、ゴミを始末する。  
物には全て所産地があり、使用後はあるべき場所へ戻すことが習慣化されるよう考えて収納することが大切のことです。

コツを踏まえ、さあお片付け！  
ステップ1  
全部出す→片づけたい場所の全ての物を出してみて、自分がどれだけの物を所有しているか把握する。

ステップ2  
仕分け→収納スベースには「使うもの」を入れることが整理収納の基本。

ステップ3  
カテゴリー分け→例えば洋服の場合「長袖」「ズボン」「スカート」といったカテゴリーに分け、その際適正量の見直し（収納できるだけ）を行う。

最後は質疑応

答の時間もあり、出席者からの質問に的確なアドバイスをいたしました。大変有意義な研修会でした。

取り出せる場所へそれぞれ【七割前後】収納するのがポイント。ぎゅうぎゅうはリバウンドを起こすので要注意とのことです。

また、家族の理解と協力を得るために大切な【一時置き場】を作つておくことは必須だそうです。



## 合同施設訪問

令和4年12月13日に、志津4地区社協で合同施設訪問を行いました。

お祝いの品に井野小、上志津小、志津中からの手紙を添えて対象のみな様にお届けしました。  
その時のお礼のお言葉をいくつかご紹介します。  
「いろいろとお気遣いありがとうございます。  
「何かとお世話になりますが今後ともよろしくお願いいたします。」  
「小さな子さんのこころあたたまるメッセージありがとうございました。」  
「子どもは近くに住んでいますので時々は電話をくれたりたまに顔を見せててくれますし、週に一度はヘルパーさんが来てくださいますので今のところ困るところはありません。病気しないよう、ケガをしないようにと心がけています。」  
「ガをしないようにと心がけています。」

志津地区は「さくら福寿苑」、「あゆたの森」、「癒しのデイサービス志津」を訪問しました。